

## 【投信調査室コラム】 日本版ISAの道 その57 NISAと英国ISAの最新調査結果

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

### 日本証券業協会より証券会社 129 社の NISA 開設・利用状況公表

2014年5月28日(水)に日本証券業協会が2014年3月末における証券会社129社のNISA口座に関する調査結果を発表した。日本全国でNISA口座を開設、利用する個人投資家の属性や投資商品、取引額等について分かるものである。各紙が報じているが、5月29日付日本経済新聞朝刊の一部を下記に引用する。「日本証券業協会は28日、2014年に開始した少額投資非課税制度(NISA)を通じて、**個人投資家が株式や投資信託を購入した金額が3月末時点で6080億円にのぼった**との調査結果を公表した。**総口座数は421万と開始後3カ月で約3割増**。…(略)…。口座開設した投資家を世代別にみると、退職世代にあたる**60歳代以上が全体の約61%を占めた**。1月1日時点の前回調査に比べ約4ポイント低下したが、中高年が中心であることに変わりはない。20歳代は約3%、30歳代は約8%と、年齢が若くなるにつれてNISA利用には慎重だ。…(略)…。**NISA口座のうち、投資未経験者の割合は11%だった**。**取引実績のあるNISA口座の比率は約23%**で「全員参加型」とはまだいえない状況にある。NISA口座を通じた個人マネーが向かう先は個別株が中心。日証協の調査では**総額6080億円のうち株式が60%を占め、投信が37%**と続いた。」(下線筆者、\*URLは後述[参考ホームページ])。

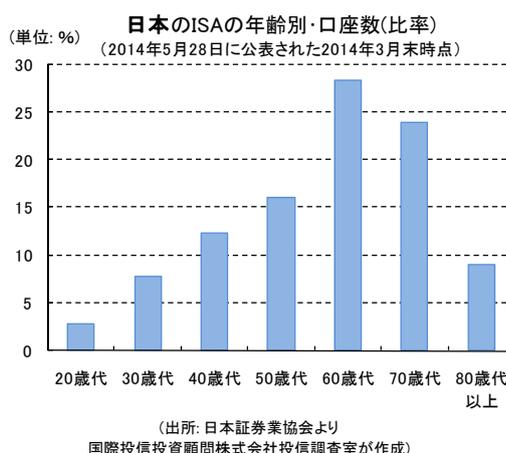
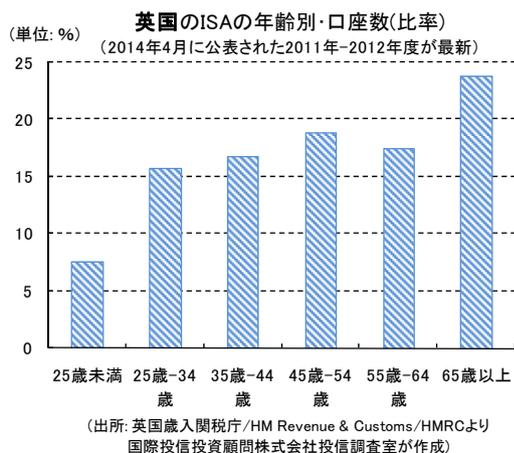
### 証券と銀行を加えた額は NISA 口座で投信に 4700 億円超(月 1560 億円)

2014年5月28日に日本証券業協会の稲野会長が「現時点での金融機関に開設されたNISA口座数は不明であるが、少なくとも全体では600万口座以上になっていると思われる。」と発言した。NISA口座流入額は上記通り、**証券会社各社合計で1~3月に6080億円、このうち投資信託は37%(約2250億円)なので、月々平均すれば約750億円**。銀行等の買付額だが、ここで仮に、先述の全体「600万口座」から証券会社各社合計421万を差し引いた179万に、日本証券業協会が発表した**大手証券会社10社における実際に買い付けがあった口座のNISA総口座に占める比率(22.8%)および平均買付額(60万7000円)を使い、それが全て投信になったとすれば、2477億円、月々826億円**となる。つまり、証券と銀行を加えた額はNISA口座で投信に4700億円(月1560億円)を超えることとなる。



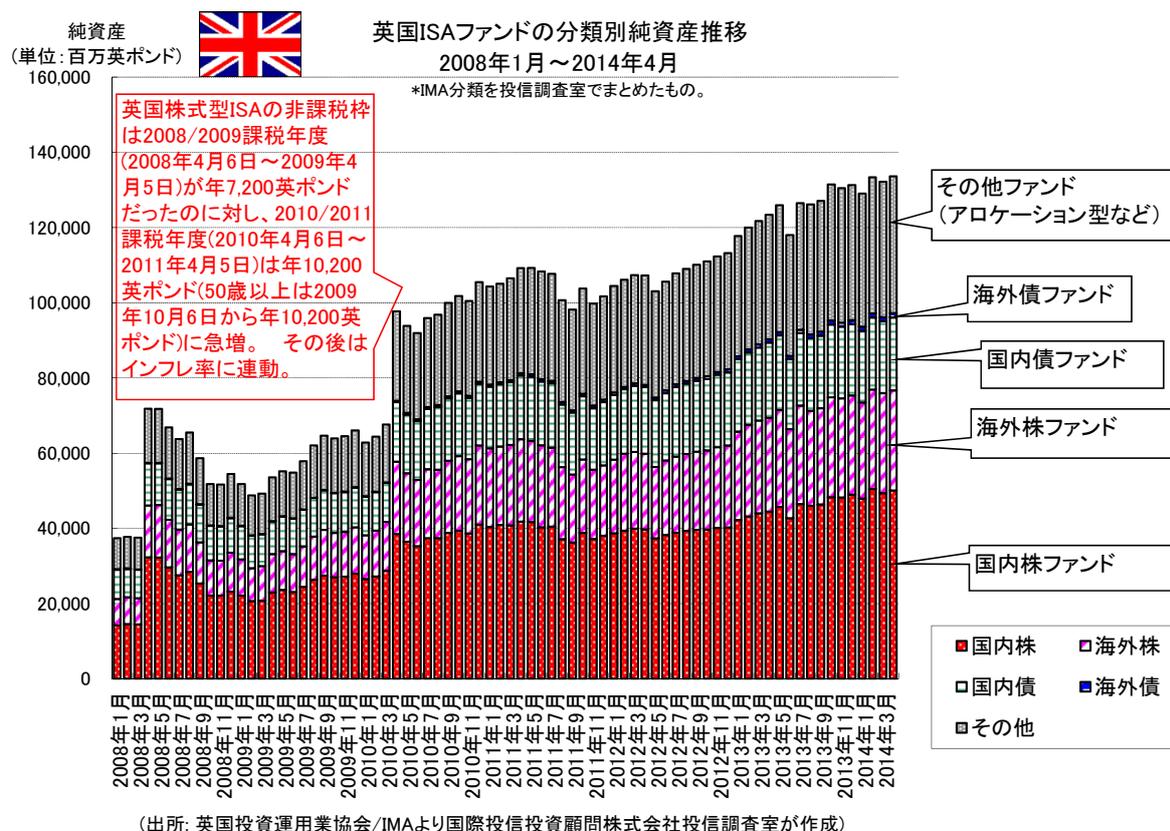
### 年齢別・口座数を英国と比較

日本証券業協会の調査結果によると、NISA口座開設者の60歳以上が約61%、50歳代が16.0%、40歳代が12.3%、30歳代が7.8%、20歳代が2.7%で、60歳以上は前回調査時(2014年1月1日)の65%より下がった。NISA本家英国ISAをみれば、口座数は日本と同様、年齢が若くなるにつれて少ないのだが、65歳以上が全体の24%(\*55歳以上で41%)、55歳から64歳が17%、45歳から54歳が19%、35歳から44歳が17%、25歳から34歳が16%、25歳未満が8%となっている(最新2011年-2012年度の数値。英国ISA投資家については、2014年5月19日付け、日本版ISAの道 その55を参照\*URLは後述[参考ホームページ])。英国では1999年にNISAが導入され15年経過したが、口座保有者の約4割が55歳以上となっており、日本では現在、60歳以上が約6割だが今後は英国の例に近づくのもかもしれない。



## NISA が範としている英国 ISA の最新統計～大分類の純資産推移～

ここで 2014 年 5 月 28 日に英国投資運用業協会/IMA より発表された最新統計を概観する。まず、英国 ISA ファンドの純資産であるが、右上がり拡大しており、4 月末時点で 1335 億英ポンド(約 23 兆円)である。その英国 ISA ファンドの純資産を大分類で見ると 2014 年 4 月末の純資産の大きい順に、国内株ファンド、その他ファンド、海外株ファンド、国内債ファンド、海外債ファンドとなっている。

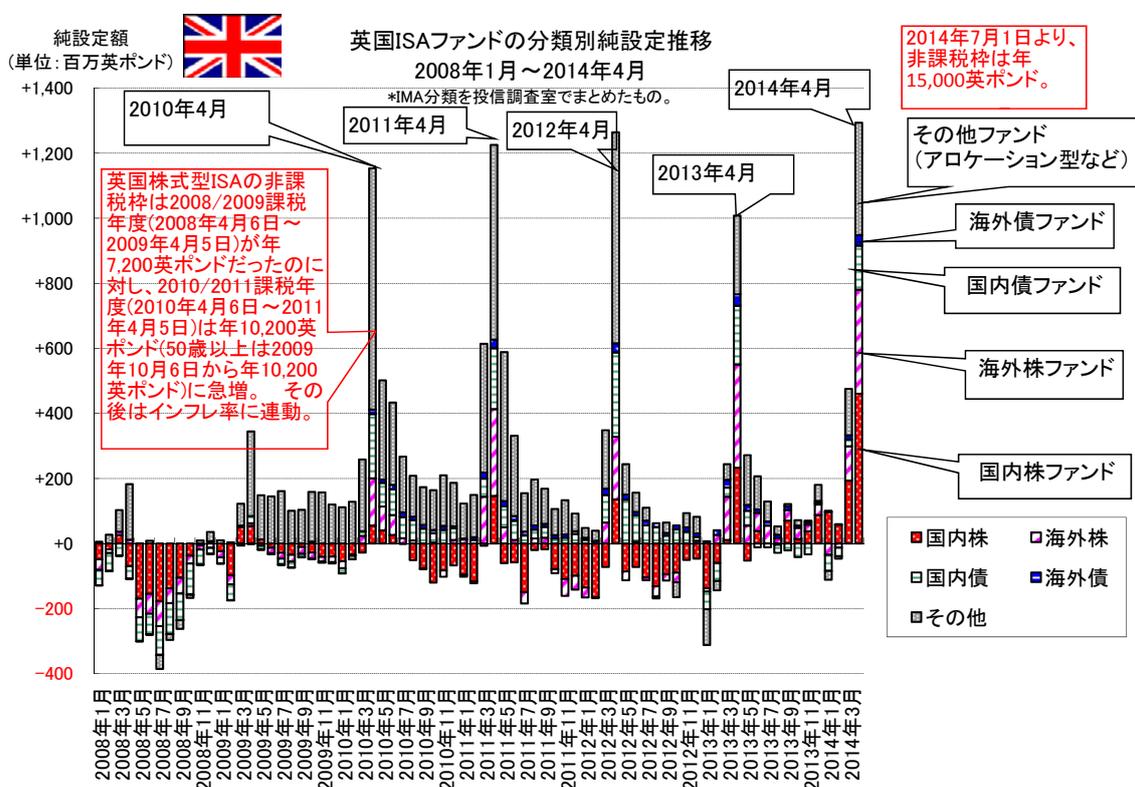


尚、2010 年 4 月に段差を見せて急増しているのは非課税枠の引き上げによるところが大きい。英国株式型 ISA の非課税枠は 2008/2009 課税年度(2008 年 4 月 6 日～2009 年 4 月 5 日)が年 7,200 英ポンドだったのに対し、2010/2011 課税年度(2010 年 4 月 6 日～2011 年 4 月 5 日)は年 10,200 英ポンド(50 歳以上は 2009 年 10 月 6 日から年 10,200 英ポンド)に急増している(\*その後はインフレ率に連動)。

## NISA が範としている英国 ISA の最新統計～大分類の純設定推移～

英国 ISA の純設定だが、4 月に ISA ファンドへの純設定額は+1293 百万英ポンド(約 2230 億円)と前月 3 月の +475 百万英ポンド(約 818 億円)から大きく伸びた。これは例年同様、今年も 4 月 5 日の課税年度末にかけて駆け込み投資が行われたため、課税年度最後のわずか 5 日間(2014 年 4 月 1 日～5 日)に+358 百万英ポンド(約 615 億円)が純流入した。2014 年 4 月 5 日に終了した 2013/2014 課税年度の ISA ファンドの純設定は総額+23 億英ポンド(約 3900 億円)だった。

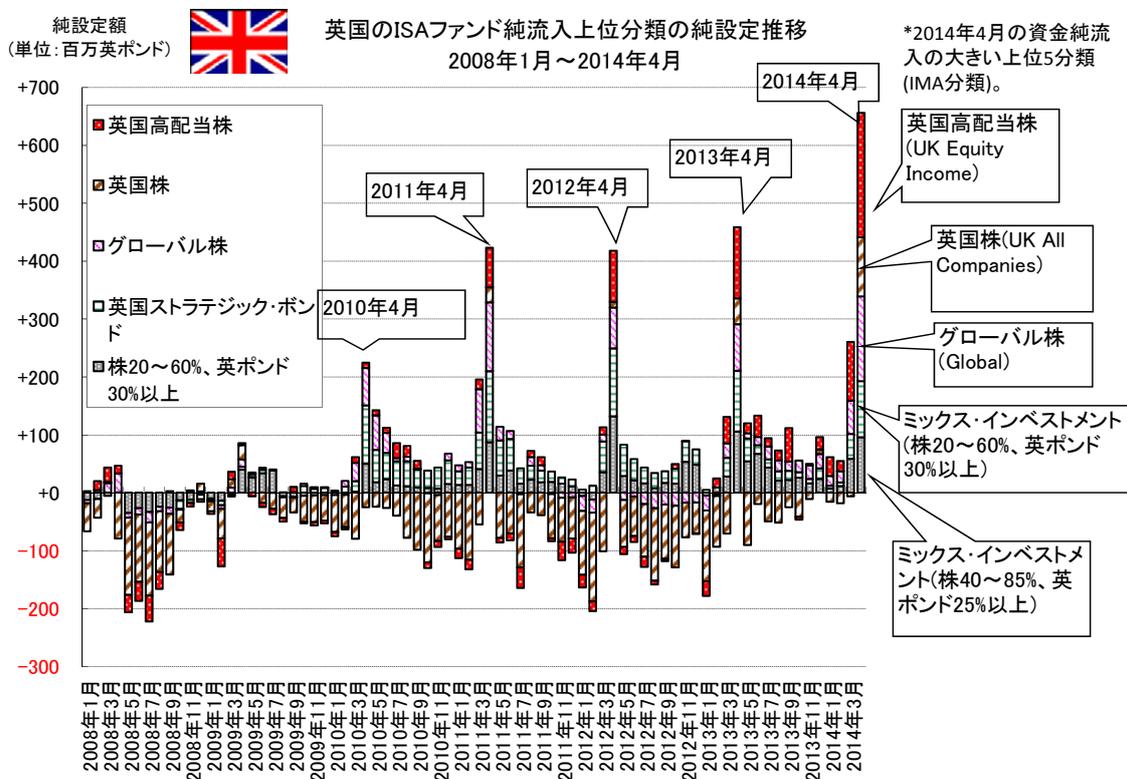
純設定を大分類で見たのが下記グラフである。2014 年 4 月の純設定の大きい順に、国内株ファンド、その他ファンド、海外株ファンド、国内債ファンド、海外債ファンドといずれも純流入となっている。国内株の人気も継続している。英国 ISA ファンドの国内株(不動産含む)ファンドは毎年 4 月に純流入で、それ以外の月は純流出となる傾向が多かったが(毎年 4 月 5 日の課税年度終了と 4 月 6 日の課税年度開始の関係)、2013 年 9 月から 8 カ月間、純流入が続いており、最近はそれが薄れている様である。



## NISA が範としている英国 ISA の最新統計～詳細分類の純設定推移～

上記英国 ISA ファンドの純設定について詳細分類で見ると、2014 年 4 月の純設定の大きい順に、1 位「英国高配当株(UK Equity Income)」、2 位は「グローバル株(Global)」、3 位は「英国株(UK All Companies)」、4 位は「英国ストラテジック・ボンド(£ Strategic Bond)」、5 位は「株 20～60%、英ポンド 30%以上(Mixed Investment 20-60% Shares)」となっている。この上位 5 分類についての純設定推移を見たのが次頁グラフである。国内株ファンドにおいて、毎年 4 月に大きく純流入で、それ以外の月は純流出となる傾向が薄らいでみえるのは、国内株ファンドのなかの「英国高配当株(UK Equity Income)」への強い人気によるもので、国内株ファンドのなかでも「英国株(UK All Companies)」では、これまで通り、4 月に純設定が膨らむという季節性が見られる。

参考まで、2013/2014 年度で最も純流入額の大きかった分類をみると、1位「株 20～60%、英ポンド 30%以上」(前年も1位)、2位「英国高配当株」(前年7位)、3位「英国中小型株」(前年13位)、4位「グローバル株」(前年は純流出で31位)、5位「不動産」(前年8位)であり、やはり英国高配当株の人気と、グローバル株の躍進が目立つ。



[参考ホームページ]

日本証券業協会「証券会社のNISA 口座の開設・利用状況」・・・「 <http://www.jsda.or.jp> 」、日本証券業協会「英国・米国における個人の中長期的・自助努力による資産形成のための投資優遇税制等の実態調査」報告書・・・「 <http://www.jsda.or.jp/shiryu/houkokusyo/isahoukoku140528.html> 」、2014年5月29日付日本経済新聞朝刊「NISA、3月末で6080億円流入 口座数は3割増」・・・「 <http://www.nikkei.com/article/DGXNZ071930470Y4A520C1DTA000/http://www.nikkei.com/article/DGXNZ071930470Y4A520C1DTA000/> 」、2014年5月23日付ニッキン「NISA 口座、200万件に迫る」・・・「 <http://www.nikkan.co.jp/articles/show/1405220000677209> 」  
2014年5月19日付日本版ISAの道 その55「NISA 本家・英国ISAの今(最新属性)～65歳以上で口座数が最も多く、金額も多く、最も高額の15,000英ポンド以上の積み上がりが際立つ～」・・・「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140519.pdf> 」。

以上  
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。  
○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。  
○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。  
○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。  
○本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。  
また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。